

7月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

2年7月のD I 値は8指標中、5指標が上昇。依然大きくマイナスに変わりないが、6月以降改善傾向が窺える。また「景況」「取引条件」については下落。「雇用人員」については横這いとなった。

2. 県内中小企業の景気の現状

家電製品卸売業・小売業ではステイホームや猛暑により季節商品の動きが好調。また緊急事態宣言解除による経済活動の再開、各種補助金や給付金の効果が一部の業種ではあった様子。

一方、依然として続く原材料高や一時期値下がり傾向にあった燃料価格の上昇に加えて、新型コロナウイルスの影響により厳しい状況が続いており、先行きを不安視する声が多く、多くの業種から寄せられた。

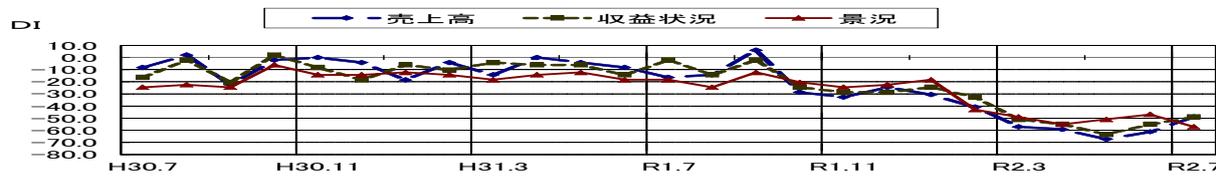
景気は米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢、また我が国をはじめ世界中で出口の見えない新型コロナウイルス問題など国内外経済の下振れリスクが顕著化してきており、一部に持ち直しの動きがあるものの景気の低迷が続いている。県内中小企業においても、更なる景気の悪化に備える必要がある。

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

	R1 7月	8月	9月	10月	11月	12月	R2 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	前月比 増減
景況	-18.4	-24.5	-12.2	-20.4	-24.5	-22.4	-18.4	-42.9	-49.0	-55.1	-51.0	-46.9	-57.1	-10.2
売上高	-16.3	-14.3	6.1	-28.6	-32.7	-24.5	-30.6	-40.8	-57.1	-59.2	-67.3	-61.2	-49.0	12.2
収益状況	-2.0	-14.3	-2.0	-24.5	-28.6	-28.6	-24.5	-32.7	-51.0	-55.1	-63.3	-55.1	-49.0	6.1
販売価格	4.1	6.1	12.2	8.2	10.2	10.2	12.2	8.2	2.0	-12.2	-2.0	-2.0	0.0	2.0
取引条件	-2.0	-8.2	-6.1	-6.1	-8.2	-4.1	-4.1	-14.3	-20.4	-30.6	-26.5	-18.4	-22.4	-4.0
資金繰り	-8.2	-10.2	-4.1	-12.2	-12.2	-16.3	-18.4	-26.5	-32.7	-40.8	-40.8	-36.7	-30.6	6.1
設備操業度	-6.1	-2.0	0.0	-8.2	-8.2	-4.1	-2.0	-8.2	-10.2	-14.3	-14.3	-22.4	-16.3	6.1
雇用人員	-2.0	-2.0	-2.0	-6.1	-2.1	0.0	-2.0	-6.1	-12.2	-18.4	-8.2	-10.2	-10.2	0.0

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

前年同月比DIの推移



〔景況関連の報告〕

【製造業】

<食料品>

1. 味噌・前年同月比、みその生産量は87.2%出荷量は98.3%となった。みその生産量は下降、出荷量は上昇するも低調である。全国の味噌も生産量92.5%出荷量90.2%で伸び悩み前年同月比ダウン。新型コロナ禍により業務用味噌売上低下、家庭用味噌は巣ごもり効果で現状維持のなか、依然として原材料のコスト高もあり収益面は厳しい状況が続いている。
2. 漬物・漬物製造業ではコロナウイルスの影響が多少改善しつつあったが、再度の感染者増で作業時間短縮の事業所も出てきている。野菜生産農家では瓜の収穫が最盛期であるが天候の影響で収穫量が減少している。また製造者の不況で予約数量を変更される農家も出てきている。その他葉物野菜等は概ね例年並みである。

<繊維・同製品>

3. 縫製・6月度同様7月度に関しても、景気動向は変わらず悪い方向に向かっている。GOTキャンペーンの影響が解らないが、コロナ感染第2波が各都道府県に浸透して患者数が増加しているので、消費者も不要不急の外出は避けているので小売店は想像以上に苦しい状況であり、その影響が受注に大きく反映して状況は6月度同様50%以下で推移している。キャバ確保の為、受注しているサージカルガウン・防護服等の受注もあるが、収益が悪く苦戦している。この先どうなるか全く解らない状況だ。政府・自治体からの各助成金に関しても、助かった組合員は多いのだが、景気が回復せず益々悪い方向に向かっている。殆どの企業：組合員は助成金を使い果たし、次は廃業：倒産するしか無いと思っている。次の手を打って頂かないと：：：各企業：組合員で打破するしか無い。
4. 縫製・引き続き新型コロナウイルスの影響は現在のところ弊社には特筆する事項がないものの、今後においてマイナス影響が出る可能性があると予想しているため、先行きに対する漠然とした不安が広がっている。長期化が予想されるため、引き続き企業体力堅めに注力している。生産性については、昨年来及び今春新卒採用にて生産数量に対処、設備面では順次進めているもののコロナ影響で控え感がある。7月は生産数量は若干増産傾向。採用については、昨年に比べると求職者が多い傾向。

<木材・木製品>

5. 製材・コロナ禍により受注の減少が続く苦慮している。また対策として雇用調整助成金を取得している。

6. 木 材・やはり毎日、新型コロナウイルスに感染した人々の人数を報道で公表されると国民すべての人々が一様に萎えいでしまう。今この大変な時期に家を新築したり、リフォームしようとする人は確実に減っている。消費者の中には、コロナの大変な時期で仕事も減っているだろうから、予算はこれだけしかないけどリフォームさせてあげるといような足元見え見えの消費者が目立ってきている。
7. 木 材・原木丸太の入荷量は、新型コロナウイルス・原木丸太の価格の減少により少なくなっている。今後、原木丸太の入荷を期待し、単価減少の中で売っていく。
8. 製 材・コロナ禍の影響で住宅着工数が減少し、売上げが減少している。秋以降の見積り依頼も少なく、今後の見通しが立たない。

<印 刷>

9. 印 刷・新型コロナウイルスの影響が少しなくなり、印刷物の需要が前月6月に比べ少し回復してきた。自粛していたスーパー・不動産関連の印刷物が動き出した。只、依然、観光関連・パッケージ関係の印刷物の動きは鈍く業界全体として売上げが前年対比10%~50%ダウンが続いていて非常に厳しい状況である。この状態が続くとあとどれくらい持ち堪える事ができるかという声がきこえてきた。
10. 印 刷・7月もコロナの影響による大きなマイナスの月となった。阿波踊り、海開き、花火大会、祭り、夏休みの行事、各種イベント等の中止に加え、第2波の影響で9月にかけての再開に待ったが、かかり製作が更に延期されたもの、中止されたものが出てきている。雇用調整助成金、持続化給付金、県や市の助成金、感染症対策対応資金等融資を利用して、しのいでいる会社も少なくない。将来に大きな負の遺産を残すことになるが、経済の回復を早くするには仕方がないのかもしれない。第3波4波を抑え、上手な経済活動の再開を期待している。

<窯業・土石製品>

11. 生 コ ン・7月は昨年同月と比較してほぼ横ばい。梅雨の影響で7月前半はかなり出荷量が低迷した状態だったが後半特需工事の舗装にかかり、まとまった量の打設があったので全体的にある程度の出荷量になった。
12. 生 コ ン・7月の出荷数量は、対前年同月比24%減であった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して、新規発注工事の減少と郡部での出荷が極端に少なく、また新型コロナウイルスの影響により、民間工事の新規発注が縮小される状況にあり、結果として数量の大幅な減少に影響している。懸念事項としては、運転手の高齢化と人材不足が深刻な問題であり、今後の緊迫した課題として対応が迫られている。

<鉄鋼・金属>

13. 鉄 鋼・新型コロナウイルス感染症の影響により、業況は厳しい状況が続いており、一部では稼働調整による設備操業度の低下がみられるなど、総じて生産活動は弱含んでいる。景気は弱い動きが続いているとのことでもあり、また、影響の長期化が懸念され、先行き不透明感が拭えず、今後の景気持ち直しが期待される。
14. ステンレス・新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかからない状況が続いているが、感染予防対策を実施しながらの経済活動の本格化に向けて対応を実施している。海外での営業活動についても、渡航及び帰国後の隔離対応等いろいろな問題はあるが、現地の状況を確認しながら対応準備を進めている。

<一般機器>

15. 機械金属・売上高や引合いなど、一部では、横ばい圏内の動きを維持しているところもあるが、かなりの組合員に減少傾向が見られ、景況感に悪化の兆しが見られる。また、米中関係の緊迫化をはじめ、新型コロナウイルス感染症の拡大兆候が発現してきており、先行きの見通しが不透明で、将来に対する不安感が拭えない状況である。加えて、熟練技術者をはじめ従業員の確保難、原材料価格その他の経費の増加、営業活動の停滞などが、引き続き、直面する経営上の課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

16. 食糧卸・外食の停滞が長引き、消費が戻らない。
17. 各種商品卸・新型コロナウイルス感染症の影響によるステイホームと猛暑のおかげで売上高は維持できた。（家電卸）

<小売業>

18. ショッピングセンター・7月の売上高の前年対比は全店計105.6%（既存店106.9%）、客数98.3%（既存店100.9%）だった。先月と同様、今月も閉店セールにより売上は前年対比100%を超えた。8月に入り何店舗かが改装のため閉店するが、150坪を超える売場を持つ店舗はそのまま営業するので大幅な売上減はないと思われる。が、徳島県におけるコロナ感染者が8/1で26名となり、阿南市でも1名の感染者が確認された。これにより阿南市民のコロナに対する恐怖意識が増幅されるのは必至で、買物に出かける回数や買物に費やす時間にどのような影響が出るか心配だ。
19. 電気機器・全般的にはコロナ拡大の悪影響のなか、猛暑により空調関連の商品の動きが良い。
20. 畳小売業・梅雨明けが遅かった分、一般家庭用の仕事ができている。持続化給付金などの申請をして、しのいでいるところが多いが、コロナの県内拡大でますます厳しくなりそうだ。

21. 機械器具・コロナの影響は限定的であったが、パーツメーカーのコロナ影響があり、来年度モデルの遅れが生じる可能性あり。

<商店街>

22. 徳島市・コロナの影響で客足が戻ってきてないようだ。

23. 徳島市・商店街はセールを行っているので少し増加。アミコもそごう閉店セールで客も少し増加。7月後半からコロナ感染者が増加しているのが心配だ。

24. 阿南市・客足減少。

25. 鳴門市・6月、7月は前年と同じ、または良い店が多い。（家具業界）

<サービス業>

26. 土木建築業・徳島河川国道事務所、河川は前年度に比べ、改修事業費が約85%になり、業務量も去年より少なくなったと思われる。道路は前年度に比べ新直轄費が85%と減になったが、一般道の事業費が新直轄の減額分増える。交通対策課は無電柱化事業が去年より3倍になり、インフラ（NTT、水道、電力、カス等）の調整が大変になっている。道路管理課も去年に比べ、1.25倍の事業費（橋梁補修・耐震・補強）が多く発注され、忙しい。徳島事務所全体では、去年に比べ、20億増が予想され、忙しくなるのでは？コロナ対策で6月から、通常に在宅勤務を取り入れた変則シフトで、業務を進めているが、働き方改革との兼ね合いで、業務効率は落ちている。組合は契約人数12名のところ、16名担当技術者を配置し、（一般かせ）発熱等の際、様子見の休暇が増えるので、増員し多少でも業務に支障の無いようにしている。

27. 自動車販売整備業・登録車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比-15.3%の1,410台、中古車は2.8%の521台、合計では-11.1%の1,931台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比-9.1%の1,241台、中古車-0.6%の498台、合計は-6.8%の1,739台である。登録車・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比-6.8%の1,739台と減少。登録車の中古車販売台数以外は、前年度より下回る結果となった。軽自動車の中古車販売台数はマイナスではあるが0.6%減で、新車販売台数に比べると中古車販売台数のほうが良い結果となっているが、トータルでは9.1%マイナスとなった。全国的に見ると新車販売台数の減少幅はやや改善しているようだ。年後半に向けた販売回復に期待したい。収益状況の目安としている継続台数の台数は、登録車12.4%減、軽自動車4%減という結果となった。まだまだ厳しい状況は続いている。

28. 旅行業・7月も状況は良くないようだが、緊急事態宣言が解除されたこともあり、少しだけ動きが見られるようになった。

29. ビル管理・近年、取引条件がほとんど変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。(H25年・666円→R1年・793円)。このような急激な最低賃金の引上げに伴う影響が徐々に現れてきており、現下の情勢を踏まえた当面の改定のあり方を注視しているところだ。更に、働き方改革への対応、労働需給の逼迫、先般成立した社会保険(厚生、健康)改革法の施行に向けての対応等多くの課題に包まれている状況だ。加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大回避の影響が顕著なホテル分野のメンテナンス業務においては、経営や人材確保、業務遂行方法などに影響があり、事業の縮小による減収や従業員の休業補償などが重い課題となってきている。また、病院や高齢者利用施設等においては、設置者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行するとともに、これらの業務従事者に係「慰労金交付事業」の勉強を進めているところだ。全体としてみると、7月分は前年同時期と比べ、新型コロナウイルスの影響のケースを除き、大きな変化はない。しかしながら今後、多様で深刻な影響が現れてくることも想定して事業活動に当たることとしている。

<建設業>

30. 建設業・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、民間建築工事が減少している。内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止要請、国土交通省及び徳島県から、改めてマスクの着用、対人距離の確保、十分な換気等のガイドラインに基づく感染防止対策の徹底について依頼があり、会員に周知徹底をしている。
31. 電気工事業・新設住宅口数は180件であり、対前年比74.6%と減少した。
32. 板金工事業・コロナの感染状況は、一旦落ち着き発注低下は回避されているようだ。ただ今後の状況ではまだまだ気が抜けない。梅雨の長雨によって、ほぼ現場が進んでいないのでそちらの方が心配だ。
33. 解体工事業・6月～7月にかけて公共工事の発注もあり民間解体工事も活況であるが各市町村で見ると斑模様である。

<運輸業>

34. 貨物運送業・新型コロナウイルスの影響により、6月よりも一段と売上減少。今後の見通しは全く立たない状況下にある。当産業団地内に入出入りするトラックも大幅に減少している。この状況下にあっても軽油単価は前月比3円以上値上りし、今後も値上り傾向で運送業界は最悪の状態になりつつある。
35. 貨物運送業・新型コロナウイルスの影響は続き、多くの業種において貨物の輸送量は減少したままで先が見通せないとの声が多い。軽油単価が11週連続値上がり傾向にあり、高止まりするのではと不安な声も聞かれる。